

教科	地理歴史	科目	歴史総合	開講学期	通年	単位数	4	試験	前期・後期
タイプ	Ⅱ	レポート数	12	スクーリング必要時数		4	スクーリング実施時数		14
教科書(発行者)		新選歴史総合(東京書籍)							
補助教材(発行者)		新選歴史総合学習書(NHK出版)							

科目の目標	社会的事象の歴史的な見方考え方を、課題を追求したり解決したりする事により身につけて、広い視野に立ちグローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な資質を育成することをめざす。		
	1 知識及び技能	2 思考、判断、表現等	3 学びに向かう力、人間性等
	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

評価の観点及びその趣旨	1 知識・技能	2 思考・判断・表現	3 主体的に学習に取り組む態度
	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家および社会の形成者としてよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解説しようとしている。

単位認定	全レポートの合格、スクーリングの必要時数以上の出席及び定期試験合格(30点以上)で単位を認定する。
評価の方法	評価はレポート、スクーリング及び試験により総合的に行う。

学期	レポート	学習内容	スクーリング	試験
前期	第1回	18世紀のアジア	第1回	前期
	第2回	国民国家と明治維新	第2回	
	第3回	帝国主義と植民地支配	第3回	
	第4回	大衆社会と第一次世界大戦	第4回	
	第5回	半植民地主義の高揚と世界恐慌	第5回	
	第6回	国際協調体制の崩壊と第二次世界大戦	第6・7回	
後期	第7回	アジア太平洋戦争と占領政策	第8回	後期
	第8回	東西冷戦と脱植民地からの進展	第9回	
	第9回	冷戦時代の経済政策と地域紛争	第10回	
	第10回	日本と欧米先進国の経済成長	第11回	
	第11回	冷戦と世界経済	第12回	
	第12回	世界秩序の変容と日本	第13・14回	